教育実践研究　第30集（2020）109－114

［音　楽］

《越天楽今様》の「歌う」「つくり，つくり変える」「掛け合う」の学習過程の有効性

－《越天楽今様》に対する印象調査の結果を鑑みて－

吉村　智宏*

1　《越天楽今様》にかかわる問題の所在

《越天楽今様》(日本古謡)は，平成元年告示の小学校学習指導要領で，歌唱共通教材として初めて示された教材である。《越天楽今様》が歌唱共通教材に含まれた背景を，平成20年告示の小学校学習指導要領の「国際社会に生きる日本人としての自覚の育成が求められる中，我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として，我が国の音楽文化に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重する態度等を養う観点から，学校や学年の段階に応じ，我が国や郷土の伝統音楽の指導が一層充実して行われるようにする。」の文言から鑑みることができる。

しかし，石井・虫明(2011)による「小学生を対象にした唱歌の印象調査」によると，《越天楽今様》の印象を「言葉が難しい，音楽から良いところを感じない，好きではない曲，歌いたくない曲」と捉えている子供が多いことが報告されている。さらに，その理由として「文語調の詩が分かりにくい，児童にとって現実味のない歌詞である」などといった点が挙げられている。さらに，山本(2017)による「学生が小学校時代に受けた音楽科教育における「歌唱共通教材」について，どのように認知し，またどのように感じているのか」のアンケート調査で，《越天楽今様》の「正確な曲名がわかる」という項目については，０％という結果であった。小学校学習指導要領では，歌唱共通教材４曲のうちから３曲を選択して学習することが示されている。その扱いにくさからか，授業者が意図的に扱わなかった可能性も考えられる。

これら調査から見えてくることは，歌唱共通教材としての《越天楽今様》は，学習者にとっては魅力的でなく，授業者は扱うことを避ける傾向にあるか，効果的な指導がなされていないということである。しかし，《越天楽今様》の姿は，本当にそうなのだろうか。

ここで，伊野(2002)の文献を参考にし，《越天楽今様》の姿に迫りたい。

《越天楽今様》は，雅楽《越天楽》と平安中期を起源とした流行歌の「今様」が合わさってできた音楽と考えることができる。雅楽は中国大陸から飛鳥時代に伝来した音楽であるが，この《越天楽》は，平安期以降に日本で作曲された可能性があると考えられている。そして「今様」は，七五調を基本とした歌であり，時世や恋の歌，流行りものを紹介する歌など，人々の手により自由に作られていた。そして，それらつくられた今様を合わせる「今様合わせ」も盛んに行われていた。

そうすると《越天楽今様》は，日本で生まれた雅楽《越天楽》に，当時日本で流行した「今様」が合わさったものになる。当時の日本人が，《越天楽》の節を歌い，自由に詞章をつくり，掛け合わせ，楽しんでいたということが伝わってくる。即興的に詩を編みだし，歌をつくり歌い掛け合わせていた可能性も十分にある。

この人々が思い思いに《越天楽今様》をつくり掛け合っていた姿と，歌唱共通教材としての《越天楽今様》の姿に大きな隔たりを感じざるを得ない。《越天楽今様》の価値は，「歌う」に留まるのではなく，「つくり，つくり変える」そして「掛け合う」ことにあるのではないかと考え，本研究に取り組んだ。

2　研究の目的

《越天楽今様》の問題及び先行研究に鑑み，本研究における目的を以下に設定した。

《越天楽今様》の「歌う」「つくり，つくり変える」「掛け合う」の学習過程が，子供の《越天楽今様》の捉えを肯定的にし，かつ学びの深まりに有効であるかを，子供の発話行動記録と振り返りから明らかにする。

*長岡市立表町小学校

3　研究の内容と方法

⑴　**期間**：平成30年11月

⑵　**対象**：６年生37名(男子23名，女子14名)

⑶　**題材**：「今様合わせにチャレンジ(《越天楽今様》を元歌にして)」

⑷　**分析方法**

題材「今様合わせにチャレンジ(《越天楽今様》を元歌にして)」の実践で，子供の発話行動記録や振り返りの記録を蓄積し，分析と考察を加える。そして，自分の《越天楽今様》を「歌う」「つくり，つくり変える」「掛け合う」といった学習過程を経ることで，子供の《越天楽今様》に対する捉えがどのように変容していくのか，どのように学びが深まっていくのかを明らかにしていく。

なおこの実践までに，子供は元歌に考えた歌詞を合わせて歌う活動，即興的に歌詞を考え，歌をつくって掛け合う活動を経験している。

4　実践の内容

本実践「今様合わせにチャレンジ(《越天楽今様》を元歌にして)」を表１の指導計画で展開した。この指導計画は，「《越天楽今様》を歌う」「《越天楽今様》をつくり，つくり変える」「《越天楽今様》で掛け合う」の３つの学習過程で構成されている。

表１　「今様合わせにチャレンジ(《越天楽今様》を元歌にして)」の全体計画

時	○主なねらい	学習過程
1	○《越天楽今様》に出会い，興味をもつ。	《越天楽今様》を歌う
2	○つくった「今様」で《越天楽今様》を歌う。	《越天楽今様》をつくり，つくり変える
3	○グループで篳篥，笙，今様の役割に分かれ，練習する。	
4	○グループ内で今様合わせを行う。	《越天楽今様》で掛け合う
5	○今様合わせにチャレンジする。	

「《越天楽今様》を歌う」は，本実践の１時間目にあたる。今様づくりを行ったり，つくった今様で今様合わせを行ったりするためには，その元歌となる《越天楽今様》を習得する段階が必須である。この場面では，教科書で歌唱共通教材として示された《越天楽今様》の学習内容と変わらない。なお実際の「今様」が，平安期の時世や恋の歌，流行りものなどを七五調で自由に表現されていたことにならい，本題材における「今様」を，対象の子供にとって身近なことや共感できることを，七五調を基本としながら，自由に編んだ文句や歌とした。

「《越天楽今様》をつくり，つくり変える」は，本実践２・３時間目にあたる。《越天楽今様》を習得した後，子供一人一人が今様をつくり，一曲一曲を皆で歌う。この学習を経ることで，自分や仲間の今様を歌う楽しさや，いろいろな今様で《越天楽今様》を何となく歌えることの実感をもてることを目指した。さらに，グループ内で今様合わせを行うための役割分担を行った。篳篥はリコーダーで《越天楽今様》の節を演奏したり，《越天楽今様》の構成音(相対的な音高でD，E，G，A，H)の節づくりを行ったりした。笙は鍵盤ハーモニカを用い，２人１組でブレスを工夫しながらD，E，Aの和音を持続できるようにした。今様は，今様をつくりためたり，つくった今様を歌ったりした。今様をつくりためることは，吉村(2019)が述べているように歌のストックになり，即興的な今様づくりに繋がる可能性がある。なお，グループの人数は６～７名である。

「《越天楽今様》で掛け合う」は，本実践４・５時間目にあたる。自分の今様をつくり歌ったり，それぞれの役割を練習したりすることによって《越天楽今様》が自分化されたからこそ，平安期の人々が思い思いに楽しんでいた《越天楽今様》の世界を追体験することができると考えた。

5　子供の実際と分析，考察

本実践における子供の実際を示す。ここでは，第１・２・５時の学習の様子を子供の発話行動記録と授業の振り返りを示し，分析と考察を加え，明らかになった《越天楽今様》に対する捉えの変容を記述していく。

⑴　**第１時：「《越天楽今様》を歌う」様相**

第１時は，教科書に示された《越天楽今様》の歌，篳篥(リコーダー)，笙の習得を行った。はじめに示したのは，慈鎮和尚の今様「はるのやよいのあけぼのに…」である。何度か子供と今様を群読し，暗唱できるようにした後で，《越天楽今様》の節を示し，全員で歌った。

ここで，授業終盤の教師と子供とのやり取りの発話行動記録を示す。子供の名前はイニシャル，Ｔは教師，Ｐは特定できない子供，PPは特定できない複数の子供である。発話は「　」で示し，行動や表情は（　）で示す。

表２　教師と子供の発話行動記録

番号	話者・行動者	内容，発話記録，行動記録　※備考
		（何度か《越天楽今様》を歌った後）
1	T	「…なんか，元気ないね。」
2	PP	（数名うなずく。）
3	T	「この歌で，正直，気持ちが上がらない人。」（挙手を促す。）
4	PP	（ほぼ全員が挙手。）
5	T	「あぁ。そうなんだね。ところで，どうして。」
6	R.N	「歌詞の意味が分からないし…」
7	T	「あぁ，歌詞の意味ね。」
8	H.K	「メロディーがちょっと…」
9	T	「あぁ，メロディーね。みんなは？」
10	PP	（数名うなずく。）
11	T	「やっぱり，そうなんだね。実は，多分この《越天楽今様》はね，この前まで歌った歌みたいに，美しいとかきれいとかそういうことを目指した歌じゃないんだよ。そのことは，次の音楽で勉強するね。」
12	PP	（数名うなずく。）

この発話行動記録から，子供は《越天楽今様》の歌に対し，肯定的な捉えをしていないことが分かる。特に６のR.Nの発話，８のH.Kの発話から「歌詞が分からない」「好きではない」という印象が表出されている。これら発話は，本稿「１《越天楽今様》にかかわる問題の所在」で述べた，《越天楽今様》の「言葉が難しい，音楽から良いところを感じない，好きではない曲，歌いたくない曲」という印象そのものであった。なお，11のＴの発話「(前略)，この前まで歌った歌」とは，文化祭で取り組んだ合唱曲との比較のために示したものである。

ここで，第１時の子供の振り返り(抜粋)を示す。H.S／K.N／R.N／A.E／K.Oの５名を抽出児にした。抽出は無作為である。「歌詞の意味が分かりにくくて面白くない」や「いい歌って感じがしませんでした」といった子供の振り返りは，前述した《越天楽今様》の課題と共通している。さらに，「のっぺりしていて，強弱があまりないし，タイミングがずれている感じがして，気持ち悪かったです」という振り返りからは，《越天楽今様》を，文化祭で取り組んだ合唱曲のような感情表現や音楽性・芸術性といった枠組みで捉えていることも伺える。

・歌詞の意味が分かりにくくて，面白くなかったです。(H.S)
・雅楽の《越天楽》と似ているとは思いませんでした。(K.N)
・あまりいい歌って感じがしませんでした。(R.N)
・なんかのっぺりしていて，強弱があまりないし，タイミングがずれている感じがして，気持ちが悪かったです。(A.E)
・笙の音が日本っぽくてよかった。(K.O)

図１　第１時の子供の振り返り(抜粋)

この段階で言えることは，《越天楽今様》を教科書に示された楽譜を歌ったり，演奏したりするだけでは，《越天楽今様》のよさを感じ取ることは難しいし，その教材性の本質に迫ることができないということである。

⑵　第２時：「《越天楽今様》をつくり，つくり変える」様相

第２時は，習得した《越天楽今様》を元歌にして，子供がテーマに沿って今様を考えた。その後，つくった今様を皆で歌う活動を行った。

子供にとって今様をつくる活動は初めてであったが，国語科で俳句や短歌をつくった経験や，これまでの音楽の学習でわらべ歌や民謡に合うように文句をつくり，つくり変えた経験もあるため，今様づくりに抵抗を感じる様子はあまり見られなかった。

表３　子供がつくった今様のテーマ

テーマ	♪歌い出しの例
① 流行もの	♪この頃スター☆に流行るもの
② 季節もの	♪この頃うまい旬なもの／♪この頃季節に見えるもの
③ 思い出もの	♪スター☆の思い出歌おうか
④ 中学もの	♪中学いったらしたいこと
⑤ ブームもの	♪このごろ私の好きなもの
⑥ 自由もの	歌い出しの文句は自由

子供が作成した今様の例を下に示す。

・中学行ったら　したいこと　友だちづくり　したりして　遠くに出かけて　夕方に　みんなで一緒に　帰りたい
・最近私の　流行もの　15秒動画を　見ることで　面白い動画が　たくさんで　笑顔になれる　15秒
・このごろ季節に　旬なもの　さんまを焼くと　いいにおい　大根おろしと　醤油をかけて　ぱくっと一口　頬張るよ
・最近の自分の　あるある　宿題始めた７時半　マンガを手に　取ってしまって　気付けば８時に　なっている

子供の今様から，それぞれのテーマに沿って自分のことを思い思いに今様で表していることが伝わってくる。また，七五調になっていないものもある。表４で教師と子供とでつくった今様を歌う様子を発話行動記録で示す。なお，♪は歌を歌っている場面である。

表４　教師と子供の発話行動記録

番号	話者・行動者	内容，発話記録，行動記録　※備考
		（子供が作った今様をスクリーンに映しながら）
1	T	「それじゃあ，この今様。」
2	PP	「♪中学行ったら　したいこと　～♪」（各々の歌い回しは微妙にずれるが，笑顔で最後まで歌い切る。）

3	T	「お～いいね。じゃあ，次はこの今様。」
4	PP	「♪最近の自分の　あるあ…♪」(笑顔で歌うが，「あるある」で歌が乱れて止まる。)
5	T	「あぁ。ちょっとうまくいかなかったね。どうしよう。」
6	P	「あるあるを，♪あ～るある♪って歌うと。」
7	T	「あぁ，なるほど。♪あ～るある♪採用しましょう。せ～の。」
8	PP	「♪最近の自分の　あ～るある　～♪」(笑顔で最後まで歌い切る。) ※こうした今様を歌う活動が数人分続いた。

この発話行動記録の２，４，８から，仲間のつくった今様を《越天楽今様》の節で歌っている最中，子供の表情が笑顔であったことが分かる。こうした表情は，第１時の時では見られなかった。自分のことを《越天楽今様》の節に乗せて思い思いに自由に歌えることによる笑顔なのだろうと考えられる。また，４で「あるある」の部分で歌が乱れてしまったということは，本来５音分の言葉が入る場所であるが，４音の言葉になっているため，節と今様の兼ね合いがうまく機能しなかったということである。しかし，５の「あ～るある」と「あ」と「る」の間に産み字を入れ込むことで解消されたことが分かる。こうした，初見の今様や音数が異なる今様でも《越天楽今様》の節にのせて歌い切ることができる様相は，子供が《越天楽今様》の旋律の型を知覚し，それを柔軟につくり，つくり変えたりする技能を獲得しているということである。

ここで，第２時の振り返り(抜粋)を示す。抽出の５名は，図１のものと同様である。

第２時の振り返りから見えてくることは，第１時の「《越天楽今様》を歌う」場面に比べて，肯定的な振り返りが多いということである。特に，K.Nの「５７５じゃなくてもできて…」や，H.Sの「少し文字が減ったり，増えたりするのは…」という振り返りは，つくり，つくり変えた今様を歌にする楽しさへの気付きの表出と捉えられる。さらに，H.Sの「音楽だからこそ…」という振り返りからは，他者の今様から受け取れる共感性は，歌で表現するからこそ印象付けられていると考えていることが分かる。子供にとって第２時は，自分自身や仲間が今様のつくり手となって，歌ったり聴いたりすることの印象が強く残り，さらにそのことに対して「楽しい」「面白い」「いいな」「ほっこりした」「共感できた」といった肯定的な感想をもったということが分かる。

・自分たちでオリジナルの今様を作ってみて，すごく面白かったです。その人の個性や楽しみなこと，好きなことが分かったし，伝わってきました。これは音楽だからこそできるものなんだと思いました。今日，発表されていない人の今様も楽しみです。(H.S)
・昨日，自分たちで作った今様を読みました。作るときは，むずかしいなと思っていたけれど，歌ってみたら５７５じゃなくてもできて面白かったです。お題もすこしアレンジしたらもっといろいろなものができそうでした。(K.N)
・今様を作るのが大変だった。少し文字が減ったり，増えたりするのは味が出ていいかもしれない。もっと他の今様にもチャレンジしてみたい。(R.N)
・音楽で，みんなの今様を聞きました。いいなと思ったのは，旬なモノについて書いてある今様でした。おいしいものがいっぱいあるというのが伝わってきてほっこりしました。(A.E)
・みんなそれぞれの今様をつくっていて，みんな上手で驚きました。また，それぞれとっても共感することができました。今様を作るのが難しかったです。しかし，とっても楽しかったです。(K.O)

図２　第２時の子供の振り返り(抜粋)

こうした発話行動記録と振り返りから，子供が《越天楽今様》を「面白くない曲，歌いたくない曲」と捉えているのではなく，「思い思いに今様をつくり，つくり変えたり，歌ったりして楽しむことができる曲」と捉えを変容させていることが分かる。

⑶　第５時：「《越天楽今様》で掛け合う」様相

第５時は，これまでにつくりためた今様を用いて，グループ対抗で今様合わせを行った。子供は，第３時にグループ内で今様合わせのために役割を分担したり役割の練習をしたりした。

ここで，グループ対抗の今様合わせの様子を２例(A，B班とC，D班)示す。

①　A，B班の今様合わせ

A，B班の今様合わせの発話行動記録は表５である。

表５　A，B班の今様合わせの発話行動記録

番号	話者・行動者	内容，発話記録，行動記録　※備考
		(A班　今様：R.W／S.Y　篳篥：K.M／H.S　笙：N.H／K.Y) (B班　今様：M.S／T.K　篳篥：S.S／R.S　笙：E.A／K.A)
1	R.W／S.Y	「♪秋の旬の食べ物は栗，梨，林檎，米，秋刀魚，秋鮭それにアケビだよ色々あっておいしいよ♪」
2	M.S／T.K	(A班の今様を聴きながら，今様のストックから選ぶ仕草をする。)
3	S.S／R.S	(M.S／T.Kの様子を気にしながら，篳篥の節を吹く。)
4	M.S／T.K	「♪この頃季節に旬なもの秋刀魚を焼くといい匂い大根おろしと醤油をかけてぱくっと一口頬張るよ♪」
5	R.W／S.Y	(B班の今様を聴きながら，今様のストックから選ぶ。)
6	K.Y	(笙を吹きながら，席を立って，今様をのぞき込む。)
7	R.W／S.Y	「♪今の季節の食べ物は梨や柿やミカンだよ他にも色々あるんだよみんなとっても美味しいよ♪」
8	M.S／T.K	(A班の今様を聴きながら，今様のストックから選ぶ仕草をする。)
9	S.S	(篳篥の節を演奏しながら今様を選び，M.S／T.Kに渡す。) ※こういったやり取りがしばらく続いた。

この発話行動記録の１，４，７の今様の内容から，全て「季節もの」が歌われていることが分かる。つまり，Ａ，Ｂ班はそれぞれ互いの今様を聴きながら，関連した今様をストックの中から選択しているということが考えられる。この選択という行動は，発話行動記録の２，５，８からも確認することができる。更に注目したいところは，３，６，９の今様以外の役割の子供の行動である。どの役割も，「どの今様を選択するのか」を気にした行動であり，９のS.Sに至っては，自分の役割を超えて，自分で選んでいる様子が分かる。

このやり取りの様子から，今様を関連付けて歌い合っていること，班全体で今様を共有し，一緒に演奏していることが分かる。こうしたやり取りは，《越天楽今様》を自由につくり変え，掛け合いながら，皆で楽しむ様子と考えることができる。

なお，こうした今様合わせのやり取りは，他の班の今様合わせでも同様に見られた様子であった。

②　Ｃ，Ｄ班の今様合わせ

Ｃ，D班の今様合わせの発話行動記録は表６である。

表６　Ｃ，Ｄ班の今様合わせの発話行動記録

番号	話者・行動者	内容，発話記録，行動記録　※備考
		（Ｃ班　今様：Sy.O／S.O　篳篥：Y.O／M.K　笙：H.N／F.I）
		（Ｄ班　今様：K.O／S.N　篳篥：Y.M／H.H　笙：A.E／M.H）
1	Sy.O／S.O	「♪ゲームの動画を見ているとあっという間に時間過ぎるいくらあっても足りない本当はもっと見ていたい♪」
2	K.O	（Ｃ班の今様を聴きながら，頭を抱えてうつむく。）
3	S.N	（K.Oの様子を見つめる。）
4	K.O以外	（演奏しながらS.Nと同じように見つめる。）
5	K.N	（頭を勢いよく起こして）「♪YouTubeのアカウントが取れるのは13才からそれまでちょっとがまんしてなったらとって楽しむぞ♪」
6	Sy.O	（K.Oの今様を聴きながら，膝を叩きながら拍を取る。）
7	Y.O	（即興で篳篥の節を演奏する。）♪（高音から下降するように）E，D，H，A，G♪
8	Sy.O	（手を挙げて）「できた!!」
9	Sy.O	「♪YouTubeの動画見て～♪」
10	S.N	「♪今日の授業の即興をずっとK.Oにお願いしてる。ぼくは隣で見ているだけでなんだかちょっとすまないね♪」
		※こういったやり取りがしばらく続いた

この発話行動記録の５，９，10の歌の様子から，Ｃ，Ｄ班の今様合わせでは即興で今様をつくり歌うことができたことが分かる。５も９も関連した内容である。それに対し10のSy.Oの今様は，K.Oに即興を任せているS.Nの気持ちが素直にそして即興的に表れた今様である。さらに，２，６の様子からも即興で今様を作ろうと思考する様子も伝わってくる。６のSy.Oの行動は，拍感を維持しながら今様を練っている姿である。また，６のSy.Oの様子を感じ取った８のY.Oの「E,D,H,A,G」という下降の旋律を演奏する様子は，即興的に演奏し場を繋いでいる姿である。

これら様子から，今様を続けるために即興で今様を作りだし，今様合わせに取り組んでいることを確認することができた。また，それぞれの役割で今様を支えようとする動きも見ることができた。こうした即興的に今様を作りだす場面も，《越天楽今様》の自由性と即興性を大いに楽しむ姿であるといえる。

第５時の振り返り（抜粋）を示す。

子供の振り返りから，肯定的に《越天楽今様》を捉えていることが分かる。特に，H.Sの「自分の好きなことをすぐ…」や，R.Nの「…どこでもできることと，思いついたらすぐに歌える…」，K.Nの「ストックがないときは，即興をやって」といった記述から，《越天楽今様》の自由性や即興性への気付きがあることが分かる。さらに，K.Oの「歌いながら会話できること」やK.Nの「みんなでやること」という記述から，《越天楽今様》で掛け合うことによる共感性への気付きがあることが分かる。

これら発話行動記録と振り返りから，子供が《越天楽今様》を「思い思いに今様をつくったり歌ったりして楽しむことができる曲」という捉えから，「思い思

・今様合わせのよさや面白さは，自分の好きなことをすぐ曲に返ることができることだと思います。平安時代の人もやっていたのだと考えると，同じ文化に触れることができてとても楽しかった。(H.S)
・今様の面白さは，それはみんなでやることだと思いました。ストックがないときは，即興などをやって楽しかったです。種類を分けていてよかったです。いっぱい歌えてよかったです。(K.N)
・よさはどこでもできることと，思いついたらすぐに歌えて楽しめるというところです。あと，自分の思い出や季節のことなどが歌えて楽しかったです。(R.N)
・今様合わせのよさは，すぐにできることだと思いました。篳篥と笙があればそれだけで今様っぽくすることができると思いました。おもしろさは色々なことをお題にできるところと，今の気持ちを歌えることだと思いました。(A.E)
・即興でつくるのは，思いついたことをそのまま歌に込めればできるから，歌いながら会話できるところが面白いし，今様のリズムに合わせて何となく話せば作れるところが楽しい。リズムがバラバラの所も面白い。笙などの独特な音も面白い。(K.O)

図３　第５時の子供の振り返り（抜粋）

いに今様をつくり，つくり変えながら共有したり，会話をしたりできる曲」と捉えを変容させていることが分かる。

さらに，この子供の振り返りは本稿「１《越天楽今様》に関わる問題の所在」で述べた，「《越天楽》の節に自由に七五調の詞章をつくり当時の日本人は楽しんでいたということである。想像の域を出ないが，即興的に詩を編みだし，歌をつくり歌っていた」という姿に通じるものと捉えている。

６　結果と今後の課題

本研究は，「自分の《越天楽今様》を「歌う」「つくり，つくり変える」「掛け合う」の学習過程を経ることが，子供の《越天楽今様》の捉えを肯定的にし，かつ学びの深まりに有効であるのかを，子供の発話行動記録と振り返りから明らかにする」ことが目的であった。研究の結果，「《越天楽今様》を歌う」「《越天楽今様》をつくり，つくり変える」「《越天楽今様》で掛け合う」それぞれの場面を経ることで，以下のような捉えの変容と学びの深まりが見られた。

表７　本研究における《越天楽今様》に対する捉えの変容

(1)　「《越天楽今様》を歌う」場面
表２「教師と子供の発話行動記録」の４，６，８，10や，図１「第１時の子供の振り返り(抜粋)」のH.S，R.N，A.Eの様相から，《越天楽今様》を歌うのみの学習では，《越天楽今様》の捉えが肯定的にならなかった。
(2)　「《越天楽今様》をつくり，つくり変える」場面
表４「教師と子供の発話行動記録」の２，４，８や，図２「第２時の子供の振り返り(抜粋)」から，《越天楽今様》の「今様」を自由につくり，つくり変える学習に積極的に取り組み，楽しむ様相が見られた。《越天楽今様》に対する捉えが肯定的になったと言える。さらに，K.N，R.N，H.Sの振り返りの記述から《越天楽今様》の節を旋律の型を知覚し，それを柔軟につくり，つくり変えたりする技能を獲得や，《越天楽今様》を歌うからこそ印象付けられる仲間の今様への共感が見られた。
(3)　「《越天楽今様》で掛け合う」場面
表５「A，B班の今様合わせの発話行動記録」のやり取りや，表６「C，D班の今様合わせの発話行動記録」のやり取り，図３「第５時の子供の振り返り(抜粋)」から，《越天楽今様》を掛け合う学習に積極的に取り組み，楽しむ様相が見られた。《越天楽今様》に対する捉えが肯定的になったと言える。さらに，H.S，K.N，R.N，K.Oの振り返りの記述から《越天楽今様》ならではの自由性や即興性，そして《越天楽今様》で掛け合うからこそ生まれる共感が見られた。

この結果は，「１《越天楽今様》に関わる問題の所在」で示された，「言葉が難しい，音楽から良いところを感じない，好きではない曲，歌いたくない曲」という子供の印象ではなく，むしろ《越天楽今様》の節を歌い，自由に詞章をつくり，掛け合わせ，楽しんでいたと想像できる当時の日本人の姿に迫るものである。そして，そうした姿は，《越天楽今様》の旋律の型を知覚し，それぞれの今様に合わせて，柔軟に旋律を変容させ《越天楽今様》をつくり，つくり変える技能の習得や，《越天楽今様》で掛け合うことによる自由性や即興性，共感性への気付きや喜びを学び取る姿であったと言える。

このように《越天楽今様》を楽しむ子供の姿は，実際に《越天楽今様》を楽しんでいた人々に通じるものであった。それでは，歌唱共通教材で「日本古謡」として扱われている《うさぎ》や《さくらさくら》《子もり歌》はどのような様相で人々に歌われてきたのだろうか。これら歌の姿を明らかにしていくことは，日本の風土の中で生まれた歌を，人々がどのように捉えてきたのかを学ぶ一助になると考えている。研究を継続していきたい。

【引用・参考文献】

1)文部科学省(2009)『小学校学習指導要領解説　音楽編』，東洋館出版社

2)石井宏美，虫明眞砂子(2011)「小学校の音楽科における歌唱共通教材のあり方について」，『岡山大学教師教育開発センター紀要，第１号』

3)山本裕之(2017)「小学校音楽科における『歌唱共通教材』指導法についての一考察～学生アンケート調査を通して～」，神戸親和女子大学児童教育学研究

4)伊野義博(2002)「越天楽今様新たな視点によるアプローチ～小学校６年生における授業の構成～」，『新潟大学教育人間科学部紀要　第５巻第２号』

5)吉村智宏(2018)「子供が歌をつくる過程の研究－わらべ歌を元歌にした，音楽づくりの実践から－」『教育実践研究』第28集，上越教育大学学校教育実践研究センター，pp.103-108

6)吉村智宏(2019)「子供が即興的に歌で掛け合う要素の研究－わらべ歌を元歌にした掛け合い歌の実践から－」『教育実践研究』第29集，上越教育大学学校教育実践研究センター，pp.103-108

7)文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説　音楽編』，東洋館出版社

8)教育芸術社(2015)『小学生の音楽６』

9)教育出版(2015)『音楽のおくりもの６』